

令和4年

9/14
(水)

千手

野曲之舞



日本全国 能楽キャラバン!

恋慕之夜能

いつの世も、美しく哀しい愛のゆくえ——

11/9
(水)

采女

美奈保之伝



10/12
(水)

楊貴妃



12/14
(水)

恋重荷



会場 京都観世会館

時間 午後6時30分 開演(午後5時45分開場)
6時15分より、上演曲についての解説があります。



文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業
(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)

主催：公益社団法人能楽協会、公益社団法人京都観世会

チケット料金 一般券 3,000円
学生券 1,500円
四枚つづり券 10,000円

全席自由

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。
※四枚つづり券は事務所窓口のみで販売。複数人でのご使用も可能です。

ご予約・お問合せ

京都観世会館

TEL.075-771-6114
京都市左京区岡崎円勝寺町44
<http://kyoto-kanze.jp>

チケット販売サイト



交通アクセス

JR京都駅から

- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車、[T]番出口より徒歩約5分
- 京都駅前市バスのりばD2より86・206系統「東山仁王門」下車 A1より5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)

四条河原町から

- バスのりば、Eより市バス31・46・201・203系統「東山仁王門」下車(乗車時間約15分)

京阪三条駅から

- 市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
- 地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車

日本全国 能楽キャラバン!

恋慕之夜能

会場 京都観世会館
時間 午後6時30分 開演 (午後5時45分開場)

9月14日(水)

10月12日(水)

11月9日(水)

12月14日(水)

(午後6時15分) 解説 宮本 茂樹

(午後6時30分)

千手 野曲之舞

シテ(千手前) 吉田 篤史
ツレ(平重衡) 吉浪 壽晃
ワキ(狩野介宗茂) 江崎 欽次郎
笛 杉 信太郎
小鼓 成田 達志
大鼓 石井 景之
後見 浦部 好弘
地謡 浦部 幸裕
井上 裕久
浦田 保浩
片山 伸吾
越賀 隆之
梅田 嘉宏
宮本 茂樹
鷺尾 世志子
河村 浩太郎

(終了予定 午後7時半頃)

解説

千手 野曲之舞

一ノ谷の合戦で捕られ、鎌倉の狩野介宗茂に預けられた平重衡。源頼朝はこの平家の御曹司に同情を寄せ、その心を慰めようと白拍子千手の前をつかわす。重衡は頼朝に出家を願い出るが叶わない。千手は彼を慕い、舞を舞い、琴を弾く。やがて重衡は勅命によって都へ送り返されることになった。千手は涙ながらに鎌倉を出立する重衡を見送るのだった。典拠「平家物語」。金春禅竹作。

(午後6時15分) 解説 松井 美樹

(午後6時30分)

楊貴妃

シテ(楊貴妃) 松野 浩行
ワキ(方士) 有松 遼一
アイ(蓬萊国ノ者) 茂山 忠三郎
笛 左 鴻 泰弘
小鼓 曾和 鼓堂
大鼓 河村 裕一郎
後見 杉 浦 豊彦
地謡 橋本 光史
林 宗一郎
河村 晴久
味方 團
松井 美樹
深野 貴彦
河村 和貴
河村 和晃
大江 広祐

(終了予定 午後8時頃)

楊貴妃

唐の玄宗皇帝に仕える方士は、勅命により今は亡き楊貴妃の魂魄の行方を尋ね、常世の国の蓬萊宮へ赴く。姿を現わした楊貴妃——方士は形見と帝と交わした約束の言葉を所望する。楊貴妃は七夕の夜に愛の永遠を誓ったこと、さらに自分は天上界の仙女であった身の上を語り、形見の品として髪に挿していたかんざしを渡す。やがて帰っていく方士を、楊貴妃は寂しく見送るのだった。金春禅竹作。

(午後6時15分) 解説 味方 玄

(午後6時30分)

采女 美奈保之伝

前シテ(里女) 田 茂 井 廣道
後シテ(采女) 原 大
ワキ(旅僧) 岡 充
ワキツレ(従僧) 原 陸
アイ(里人) 茂山 千三郎
笛 森田 保美
小鼓 林 大和
大鼓 谷口 正壽
後見 林 宗一郎
地謡 河村 晴久
河村 晴道
古橋 正邦
味方 玄
分林 道治
浦部 幸裕
吉田 篤史
宮本 茂樹
河村 和晃

(終了予定 午後8時頃)

采女 美奈保之伝

諸国一見の僧が、都から奈良、春日の里にやってきた。そこへ現われた女性曰く、昔ある采女(美しい女官)が帝に恋したが叶わず、狼沢池に身を投げた。そして自分こそがその采女の霊である——女性は底に姿を消す。夜、僧が回向していると、再び采女の霊が現われ、甲に喜び、宮廷の酒宴を思い出し舞を舞う。そして御代を祝福し、再び池の底消えていく。小書は十五世観世元章が創作。

(午後6時15分) 解説 樹下 千慧

(午後6時30分)

恋重荷

前シテ(山科甚司) 井上 裕久
後シテ(甚司ノ亡霊) 橋本 忠樹
ツレ(女御) 橋本 知登
ワキ(臣下) 福王 知登
アイ(臣下の従者) 茂山 千三郎
笛 杉 市和
小鼓 吉阪 一郎
大鼓 河村 大
太鼓 前川 光範
後見 大江 又三郎
地謡 青木 道喜
深野 貴彦
橋本 雅夫
武田 邦弘
河村 博重
越賀 隆之
浦部 幸裕
吉田 篤史
梅田 嘉宏
樹下 千慧

(終了予定 午後7時40分頃)

恋重荷

高貴な女御に心寄せた、菊づくりの老人・山科の莊司。女御は身の程知らずの恋と思知らせるため、重荷を持ち庭を巡れば姿を見せると伝える。人の力では持てぬほどの重荷に老人は力尽き、女御を怨んで庭で狂い死にしてしまう。さすがに女御は憐れんだが、老人が霊となつて現われ責めさいなむ。しかし老人もついに心とらき、女御の守り神となると誓い、姿を消していく。世阿弥作。

◆新型コロナウイルス感染予防対策として、会場内では必ず「マスク着用」「手指消毒」「連絡先記入」をお願いします。また、会話を控える等ご協力をお願いします。体調が優れない場合は、ご来場前に医療機関にご相談ください。◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りします。◆上演中は、携帯電話など音や光を発する機器の電源はお切りください。◆今後の状況により、出演者その他が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

表紙写真/「千手」吉田篤史(ウスマド写真工房)、「楊貴妃」浦田保浩(ウスマド写真工房)、「采女」片山九郎右衛門(金の星渡辺写真場)、「恋重荷」井上裕久(上杉通)